

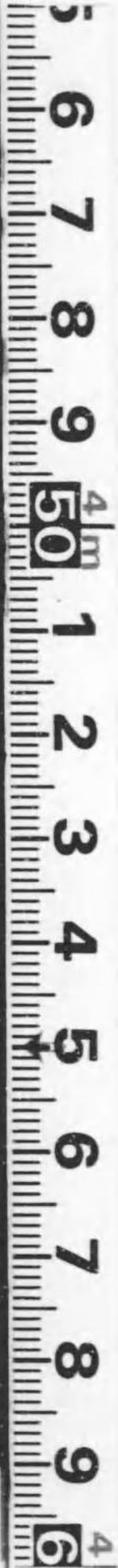
14. 21-629



1200501162884

21

0-9



14.

629

始



3F 69

14.2
629

昭和三年度業務報告

島根縣工業試驗場

14.25-629



本報告ハ昭和三年度中當場ニ於テ行ヒ
 タル各試験成績中特ニ當業者ノ参考ニ
 資シ有益ト認メタル事項ヲ拔萃シタル
 モノナリ



四九	四七	四五	四二	ク	ク	四〇	三八	頁數
六	五	三	四	九	六	二	三	行數
Z C Z	狀 茅	温 度	處 理 由	g	f	g	珪 酸 的	誤
Z H	茅 狀	濕 度	處 理	e	d	b	珪 酸 質	正

正誤表

目次

釀造部

- 一、安價原料醬油試驗……………一
- 二、甘露(再製)醬油仕込試驗……………三
- 三、醬油速釀(溫釀、酵母添加)試驗……………四
- 四、薄口醬油仕込試驗……………六
- 五、各品評會入賞清酒、醬油分析表……………七
- 六、本縣下各地產米製麴比較試驗(繼續)……………一三
- 七、酒母麴及酒母製造比較試驗……………二二
- 八、試驗場以外ニ於ケル研究調査事項……………二九

窯業部

- 一、本縣產釉藥原料試驗……………三三
- 二、建築用陶器ノ試驗……………三五

醸造部

三、結晶釉ノ試験……………三八

紙業部

一、出雲半紙類ニサイズヲ施ス試験……………四一

二、紙ノ自然變化ニ就テノ研究……………四四

三、支那産纖維植物ノ紙料トシテノ評價試験……………四七

染織部

一、レゾルチンノ亞硝化ニ依ル綠色捺染法……………四九

二、縮緬緯ノ撚數及伸度ノ鑑定試験……………五五

三、玉糸應用靴下編試験(未完)……………五六

醸造部

紙業部

三、結晶糖ノ試験……………三八

四、色種業ノ試験……………三九

一、出雲半紙類ニサイゾヲ施ス試験……………四〇

二、紙ノ自然變化ニ就テノ研究……………四四

三、支那産纖維植物ノ紙料トシテノ評價試験……………四七

染織部

一、レゾルチンノ亞硝化ニ依ル綠色捺染法……………四九

二、縮緬綿ノ撚數及伸度ノ鑑定試験……………五五

三、玉糸應用靴下編試験（未完）……………五六

昭和三年度島根縣工業試驗場業務報告

試驗事項

一、安價原料醬油試驗

(普通原料醬油トノ比較)



(一) 大豆、小麥、高粱、穀混用仕込
 (イ) 原料配合
 大豆 一〇^斤 小麥 〇・五^斤 高粱 〇・二五^斤
 穀 〇・二五 鹽 水 二・〇
 (高粱ハ加工膨脹シタルモノヲ用フ其小麥一斗當リ三貫四百匁
 穀ハ同一貫五百匁トス)

(ロ) 原料處理

大豆、小麥ハ常法ニ據ル

高粱ハ僅カニ水ニテ濕シテ強ク炒熬シ割碎ス炒熬ニ際シテハ可成早ク膨脹スルヤウニナシ決シテ焦ルコトナキ様注意スヘシ

穀ハ水ニテ濕シ三十五分間蒸饅ス

(ハ) 製 麴

常法ニヨル、種麴ハ増谷菌粉末ヲ原料石當リ一、七匁使用ス
出麴ハ稍乾燥セル如キモ香味共ニ佳良ナリ

(ニ) 仕 込

十水(塩水)仕込(塩水濃度ボーメー一九、五)

(ホ) 製 品

一ヶ年経過醗ノ搾汁成分左ノ如シ

ボーメー示度	比	重	總	酸	糖	分	食	塩	エ	キ	ス
二五、〇〇	一、二〇六	一、〇〇八	二、一七六	二、〇〇九	四四、五一九						

但シボーメー示度ハ表ニヨリテ攝氏十五度ニ於ケルモノトシテ換算シタルモノニテ比重ハ攝氏二十五度ニ於テ測定セシモノナリ

而シテ同時ニ仕込ミタル普通原料品ニ比シ香氣ノ筋異リタル所アリ且ツ引立タズ塩味イラ〜ス

(二) 普通原料使用仕込

(イ) 原料 配合

大豆、小麥等量、塩水原料ニ對シテ十水

(ロ) 原料 處理

常法ニ據ル

(ハ) 製 麴

常法ニ據ル種麴ハ増谷菌粉末ヲ原料石當リ一、七匁出麴ハ普通

(ニ) 仕 込

十水(塩水)仕込(塩水濃度ボーメー一九、五)

(ホ) 製 品

右一ヶ年経過醗ノ搾汁成分左ノ如シ

ボーメー示度	比	重	總	酸	糖	分	食	塩	エ	キ	ス
二五、五	一、二〇七	〇、九九	二、三二五	二、〇〇八	四四、四五一						

但シボーメー示度ハ表ニヨリ攝氏十五度ニ於ケルモノトシテ換算シ比重ハ攝氏二十五度ニ於テ測定セシモノナリ

(三) 右 比 較

兩者ヲ比較喇味スルニ

- (1) 香引立タズ塩味イラ〜ス香氣ノ筋異リタル所アリ
- (2) 香引立タザルモ欠点ナシ味ヨシ

一、甘露(再製)醬油仕込試験

(イ) 原料 配合

- 大豆 一〇〇〇
- 小麥 〇・五
- 高粱 〇・二五
- 麩 〇・二五

(口) 原料處理

一ノ(一)ニ同ジ

(ハ) 製 麵

一ノ(一)ニ同ジ

(ニ) 仕 込

十三水(生醬油)仕込(生醬油八十ヶ月經過諸味搾汁ボーメー二五・四)

(ホ) 製 品 (仕込後十三ヶ月經過)

右搾汁成分ハ

ボーメー示度	比	重	總	糖	分	食	塩	エ	キ	ス
(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)
二八、八	一、二四一二	一、二六〇〇	二、六三三二	一八、三六六九	五九、四七〇					

之ヲ喇味スルニ香味共ニ良好ナリ、穀ハ肉味ヲ附與シ濃味トナス効アリ但シ實沈ミ上澄ヲ呈スル趣アリ
本試験ニ採用セル増谷粉末種麵ハ製麵成績ニ香氣佳良ナル好成绩ヲ示シタリ

三、醬油速釀(温釀、酵母添加)試験

(イ) 原料配合

大豆	二・〇	小麥	三・二	米	〇・五	穀	〇・五
食塩	二・三	水	六・〇				

(ロ) 原料處理

(a) 小麥一〇〇ヲ炒熬、割碎シ約三八度ノ温湯ニテ濕シ米〇・五ヲ蒸饑シタルモノト合シ製麵ス

(b) 小麥一〇〇ヲ前ト同シ處理ヲ行ヒ穀〇・五ト合シ蒸饑製麵ス

(c) 大豆二・〇小麥一・二ヲ常法ニヨリ製麵ス

(ハ) 仕 込

(a)ト(b)ヲ合シ八十度ノ温湯六・〇(原料ニ對シ二十水)ヲ加ヘ六十度前後ニ保ツコト六―七時間ニシテ食塩
〇・五ヲ添加シ三十度前後ニ冷却シテ醬油酵母一二〇c.cヲ加フ

右二十五―三十五度ニ保ツコト二日ニシテ酸酵ヲ開始シタルニヨリ更ニ食塩〇・五添加
爾後該保温一週間ニテ(c)麵ヲ投入同時ニ食塩一・二ヲ加ヘ攪拌ス

更ニ四〇―四五度ニ上昇シ二週間保温ノ後一五―二〇度ニテ五ヶ月間放置ス

(ニ) 製 品

右六ヶ月目ニ於ケル搾汁成分

ボーメー示度	比	重	總	糖	分	食	塩	エ	キ	ス
(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)	(二五〇〇)
二四、九	一、二〇三三	一、〇四四	一、八八六八	二一、六四五	三八、一四〇					

喇味成績ハ香味共ニ普通原料使用ノモノトハ異ナリタル所アリテ劣レリ尙ホ實驗ヲ重ネ所期ノ目的ヲ達成
スルコトニ努メントス

四、薄口醬油仕込試験

- (イ) 原料配合
大豆 〇・六 小麥 一・〇 塩水 (ポーター一八、八) 一・九二 (原料ニ對シ十二水)
- (ロ) 原料處理
(常法ニ據ル)
- (ハ) 製 麴
(成ル可ク若麴ヲ得ンタメ低温經過ヲ取り出麴普通ヨリ八時間早ム)
- (ニ) 仕 込
十二水仕込
仕込後十日ニシテ醱酵ヲ開始シ一週間旺盛ニ繼續セリ
- (ホ) 製 品
右十ヶ月經過醱ノ搾汁成分ハ

ポーター示度	比	重	總	酸	糖	分	食	塩	エ	キ	ス
(一五〇)	(二五〇)	(乳酸)	(一〇六)	(二二)	(九六)	(〇八)	(二〇)	(二四)	(四五)	(二八)	(一〇)
二四、五	一一、一九	七二	一一、〇六	二二、一一	九六	〇八	二〇、二四	一一、四五	二八	一〇	

喇味セルニ淡口醬油トシテハ味ヨロシキモ稍塩味立ツ様ニシテ芳香ヲ欠グノ感アリ、塩度ヲ減スルヲ可ト
センカ

五、各品評會入賞清酒、醬油分析表

(1) 第九回本縣清酒品評會優等、一等品分析表 (昭和三年十月)

住所	氏名	酒銘	等級	色澤 点数	比重	清酒メ トル	酒精	總酸 (琥珀酸)	糖分	エキス	水素イオ ン濃度	ルビ 色計
住 所	氏 名	酒 銘	等 級	色 澤 点 數	比 重	清 酒 メ ト ル	酒 精	總 酸 (琥 珀 酸)	糖 分	エ キ ス	水 素 イ オ ン 濃 度	ル ビ 色 計
簸川郡	山田金右衛門	白梅	優等	一〇、〇〇	〇、九九七五	三、〇	一六、七〇	〇、二四七五	一、七八五七	四、九九五	四、一〇	一六八
松江市	米田金五郎	豊乃秋	全	一〇、〇〇	〇、九九六五	六、〇	一六、六〇	〇、二四二六	一、六三三〇	四、七九〇	四、二四	一五二
全	原田岩三郎	都乃花	全	一〇、〇〇	〇、九九七〇	五、〇	一六、一〇	〇、二四二六	一、四九二五	四、六六〇	四、一九	一四三
全	田中竹次郎	李白	全	一〇、〇〇	〇、九九七五	三、五	一五、六〇	〇、二九八	一、四四九二	四、七四〇	四、一四	一六四
簸川郡	板倉軍四郎	天穩	全	九、五〇	〇、九九四〇	一〇、〇	一六、一〇	〇、二六三	一、二五〇〇	三、四六五	三、九〇	一五二
那賀郡	宇津重賢	三ツ櫻	全	一〇、〇〇	〇、九九六〇	五、五	一七、四〇	〇、一五九三	一、四〇八四	四、八六五	三、八六	一五九
能義郡	山本嘉四郎	金鳳	全	九、五〇	〇、九九五〇	七、五	一七、八〇	〇、二三九	一、五八七三	四、一〇六	三、七九	一三三
松江市	岡愛造	旭天祐	壹等	九、五〇	〇、九九九五	二、五	一六、四〇	〇、二四二六	一、六五五二	五、〇四一	四、一二	一五二
簸川郡	持田榮太郎	全正宗	全	九、五〇	〇、九九六五	六、五	一六、七〇	〇、二四七五	一、四四九二	四、一〇九	四、一二	一二七
全	佐藤文造	旭日	全	九、〇〇	〇、九九五〇	六、五	一六、四〇	〇、二四二六	一、四〇八四	三、八二八	三、九五	一三六
全	米原長男	花川	全	九、五〇	〇、九九七〇	五、〇	一七、一〇	〇、二四七五	一、三三三五	四、四九二	四、〇五	一四〇

(2) 第十一回本縣醬油品評會優等、壹等品分析表 (昭和三年十月)

住所	氏名	醬油銘	等級	色澤 点数	波 示度	食 塩	總 酸 (乳酸)	糖 分
松江市	岩橋清次郎	國輝正宗	全	九、五〇	四、〇〇	一七、四〇	一、四二六	四、八七四
松江市	飯塚惠次郎	大社福授	全	九、五〇	六、〇〇	一七、〇〇	一、五九三	四、三〇七
全	原由太郎	大山	全	九、五〇	三、五〇	一七、一五〇	一、八五二	五、〇四五
松江市	瀧川福之助	日本海	全	九、〇〇	五、〇〇	一六、七〇	一、三五七	四、七八五
松江市	飯塚吉十郎	蓬萊	全	九、〇〇	九、〇〇	一六、九〇	一、三四七	三、九五五
全	森山合資會社	末廣万歳	全	八、五〇	四、〇〇	一五、七〇	一、四一六	三、九七五
八東郡	石原平太郎	王祿	全	九、〇〇	六、〇〇	一六、九〇	一、四七五	四、三九五
優等				九、九〇	五、八〇	一六、六〇	一、四三七	四、五二七
平壹等				九、一〇	五、二〇	一六、七六〇	一、四七〇	四、四三九
前年優等				九、三〇	四、八〇	一六、八七〇	一、五八三	四、四二四
前年壹等				八、三〇	七、二〇	一六、八九〇	一、七二一	四、三八五
平均								
前年平均								
平均								
壹等								
平壹等								
優等								
平優等								
壹等								
平均								

全	樋野榮	紅椿	全	一〇、〇〇	二六、三五	二二、六九八	一、四八五	四、九〇八
全	加藤万次郎	たちばな	全	一〇、〇〇	二七、二五	二二、一七七	一、八一八	八、三三三
美濃郡	増野精一	龜甲今	全	九、五	二四、三〇	一七、一九九	一、八九〇	七、四七四
那賀郡	中垣庄市	梅鶴	全	九、五	二六、〇五	一九、一八八	一、三〇五	九、五二〇
能義郡	村上牧次郎	玉藤	壹等	一〇、〇〇	二四、九〇	一七、九〇一	一、四四〇	九、三二四
松江市	井原武三郎	初日	全	一〇、〇〇	二六、〇五	一七、四三三	一、九八〇	九、五二〇
簸川郡	平山榮之助	今紫	全	一〇、〇〇	二七、〇〇	二二、五二八	一、五四五	七、二九〇
那賀郡	吉田藤吉	高城紫	全	一〇、〇〇	二五、一〇	二〇、八二六	一、三九五	四、五九七
簸川郡	廣戸一郎	八重椿	全	九、〇〇	二五、九〇	二〇、〇〇七	一、七二五	五、四〇六
那賀郡	淺原品一	千歳	全	一〇、〇〇	二五、六五	一八、一三五	一、九九五	七、六九二
全	長橋清次郎	マル上	全	一〇、〇〇	二四、四五	一七、九〇一	一、七二〇	五、四八〇
邇摩郡	藤間要二郎	紫藤	全	八、五	二六、〇五	二二、六四五	一、六二〇	四、七二〇
那賀郡	藤本美太郎	全	全	九、五	二四、八五	一九、一八八	一、四七五	七、四〇六
優等				九、八	二六、〇〇	二〇、四二八	一、六〇六	七、八二五
平壹等				九、七	二五、五五	一九、三九六	一、六五四	六、八一五

前年優
等平均
前年壹
等平均

100.0
26.03
21.282
1.529
7.428
100.0
25.92
19.748
1.599
6.635

(3) 第六回出雲清酒品評會優等、壹等品分析表 (昭和四年四月)

住所	氏名	酒名	銘	等級	色澤 点数	比重	清酒メ トル	酒精 (琥珀酸)	揮發酸 (醋酸)	糖分	エキス	水素イオ ン濃度		
住	所	氏	名	酒	銘	等級	色澤 点数	比重	清酒メ トル	酒精 (琥珀酸)	揮發酸 (醋酸)	糖分	エキス	水素イオ ン濃度
簸川郡	山田	金右衛門	白梅	優等	100.0	0.9970	5.0	16.55	0.0192	2.261	4.9604	4.22		
松江市	岡	愛造	旭天祐	全	100.0	0.9963	7.0	16.70	0.0226	2.0833	4.6488	3.98		
全	原田	岩三郎	都乃花	全	100.0	0.9967	6.2	15.30	0.0144	2.0000	4.5022	4.13		
全	瀧川	福之助	日本海	全	100.0	0.9960	6.2	16.30	0.0108	1.7241	4.3268	3.98		
仁多郡	簸上	清酒合名	日本海	全	100.0	0.9953	7.4	15.70	0.0084	2.2727	4.3844	4.04		
會社	北藏	會社	北藏	全	100.0	0.9962	6.0	15.90	0.0168	2.261	4.9356	4.22		
會社	三木	酒造合名	群益	全	100.0	0.9962	6.0	15.90	0.0168	2.261	4.9356	4.22		
松江市	米田	金五郎	豐乃秋	全	95.0	0.9990	1.3	15.50	0.0204	2.0833	5.2036	4.10		
簸川郡	板倉	軍四郎	天穩	壹等	100.0	0.9930	11.0	17.30	0.0175	2.0000	4.1614	4.16		
全	飯塚	吉十郎	蓬萊	全	95.0	0.9960	6.5	16.45	0.0157	2.0000	4.8276	4.14		
松江市	田中	竹次郎	李白	全	95.0	0.9970	6.0	14.70	0.0298	2.0833	5.0622	4.19		

(4) 第六回石見清酒(新酒)品評會優等、壹等品分析表 (昭和四年四月)

住所	氏名	酒名	銘	等級	色澤 点数	比重	清酒メ トル	酒精 (琥珀酸)	揮發酸 (醋酸)	糖分	エキス	水素イオ ン濃度
那賀郡	宇津	重賢	三ッ櫻	優等	100.0	1.0000	1.0	15.90	0.0154	2.5976	5.6704	4.09
美濃郡	大石	爲太郎	浦風	全	100.0	0.9965	6.5	16.30	0.0175	1.9230	4.4422	4.22

邇摩郡	嘉戸	京二	石東美人	全	一〇、〇〇、九九五二	七、五	一七、四〇〇	〇、一四七五	〇、〇二五六	一、九六〇八	四、五〇二四	四、一二
美濃郡	合資	右田本店	宗味	全	九、五〇、九九六〇	六、七	一七、〇〇〇	〇、二九八	〇、〇三七五	一、八六九二	五、〇〇〇八	四、二九
邇摩郡	若林周五郎	開	春	全	一〇、〇一、〇〇一〇	一、〇	一六、六〇〇	〇、一八九	〇、〇二四六	二、五六四二	五、九九六〇	四、一〇
鹿足郡	財間	淳高	砂	全	九、五〇、九九八五	三、〇	一七、八〇〇	〇、一七七〇	〇、〇二七八	二、七〇二八	五、六〇四八	四、一二
邑智郡	石津千枝子	八戸川	全	一〇、〇〇、九九六八	五、〇	一七、二〇〇	〇、一七九九	〇、〇三二七	二、〇八三三	四、九六八八	四、一六	
邇摩郡	山尾助二郎	八千矛	壹等	全	九、五〇、九九八五	三、二	一六、四〇〇	〇、一四七五	〇、〇二七八	二、三四一〇	五、四〇〇〇	三、九三
那賀郡	齋藤	堅花	劔	全	八、五〇、九九八〇	四、〇	一六、九〇〇	〇、二〇六五	〇、〇二五八	二、四六九二	五、四八四四	四、〇二
全	佐々田美香	二富士	全	九、〇〇、九九九〇	二、七	一六、七〇〇	〇、一六五二	〇、〇二五六	二、五九七六	五、三七四八	四、一二	
美濃郡	中原國太郎	白菊	全	九、五〇、九九七五	五、〇	一六、四〇〇	〇、一六五二	〇、〇二六八	二、二七七	五、〇〇一四	四、〇〇	
全	石橋信矣	富士鷹	全	九、〇〇、九九七〇	五、二	一七、一〇〇	〇、一五九三	〇、〇二五二	二、三四一〇	四、六四四四	三、九五	
全	高津酒造合名	歌神	全	九、〇〇、九九八二	三、五	一七、四〇〇	〇、一七四一	〇、〇二三九	二、一二七七	五、二二六	四、〇九	
那賀郡	武田勝太郎	玉江正宗	全	九、〇〇、九九八二	三、五	一七、一〇〇	〇、一五三四	〇、〇一九四	二、一〇五一	五、一六五六	四、〇二	
美濃郡	村上牧三郎	國の華	全	九、〇一、〇〇二〇	二、〇	一六、七〇〇	〇、一六八一	〇、〇二五二	二、七四〇〇	五、九九六一	四、〇九	
平壹均					九、一〇、九九八六	三、一	一六、八三〇	〇、一六一五	〇、〇一七〇	二、三七四三	五、二七三五	四、〇三

前年優等平均	九、九〇、九九八七	五、六	一六、九九〇	〇、一六二七	—	—	—	—	—	一、六二六一	四、六八四六	—
前年壹等平均	九、五〇、九九六二	二、三	一七、七三〇	〇、一七二〇	—	—	—	—	—	一、六七九九	五、〇一五〇	—
備考	比重及清酒メートル度數ハ攝氏十五度ニ於ケル示度ナリ											

六、本縣下各地産米製麴比較試験(繼續)

本試験ハ農事試験場及各農會ト連絡ヲ保チ各地産米ニツキ醸造用米トシテノ長短並各米質ニ對スル適切ナル醸造操技ヲ研究シ農事、醸造兩方面ノ參考ニ供セントスルモノナリ

(1) 本年度可驗米

産地	米種	精白度	精白時間	精米機	玄米重量	白米重量	外観	備考
簸川郡布智村	穀良都	二、七	一〇	清水式一俵掛一馬力	三、九三〇	三、九二〇	—	—
全郡塩治村	八反流	二、五	五	全家庭用一斗掛四分一馬力	三、九四〇	三、九〇〇	溝稍深	—
飯石郡	穀良都	二、五	一〇	全一俵掛一馬力	三、九五〇	三、九二〇	全	—
全	八反流	二、五	一〇	全	三、九三〇	三、九〇〇	—	—
仁多郡	穀良都	二、五	—	—	三、九四〇	三、九二四	—	二等
全	八反流	二、五	—	—	三、九四五	三、九三〇	青米少々アリ	—

邑智郡市山村	雄町一號	三、〇	—	三、九五六	三、九一七	大粒 精白米美麗	一等
美濃郡二條村	全二號	二、三	二〇	三、九五〇	三、九二〇	全	一等
那賀郡周布村	雄町	二、五	一五	三、九二〇	三、九〇〇	青米少々アリ	並等
八東郡出雲郷	備前雄	二、五	—	三、九二五	三、八九六	大粒 精白米美麗	三等
村	町移植	—	全	—	—	—	—

(2) 比較試驗事項

- (イ) 浸漬時間ヲ比較的短時間ナラシメタル際ノ試驗
(前年度試驗成績良好ナリシニ鑑ミ十八時間浸漬)
- (ロ) 浸漬時間ヲ比較的長時間ナラシメタル際ノ試驗
(二十一時間浸漬)

- (ハ) 比較的低温經過ヲ迪ラシメタル際ノ試驗
- (ニ) 比較的高温經過ヲ迪ラシメタル際ノ試驗
- (ホ) 各産米ニ對シ右各項ノ試驗ニヨリ最モ適當ナル條件ナリト認メタル處理操作ヲ行ヒタル試驗
- (3) 試驗實施方法並其成績
 - (イ) 及 (ロ) 各試驗事項並實施方法
 - (イ) ハ十八時間浸漬 (ロ) ハ二十一時間浸漬シ其他ハ總テ同一條件ニ據ル
 - (イ) 及 (ロ) 各産米ノ蒸米狀況

産米別	(イ) (十八時間浸漬ノモノ)	(ロ) (二十一時間浸漬ノモノ)
飯石 穀良都	最モ硬シ	硬シ
全八反流	蒸セ上リ可	稍硬シ
仁多 穀良都	コワシ硬シ	硬シ
全八反流	稍硬シ	蒸セ上リ可
簸川布智 穀良都	コワシ硬シ	硬シ
全塩治 八反流	軟ク手觸リ良	硬シ
邑智市山 雄町	全前	蒸セ上リ可
美濃二條 雄町	全前	全前
那賀周布 雄町	硬シ	稍硬シ
八東出雲 雄町	蒸セ上リ可	蒸セ上リ可
郷	—	—

操作	各操作間ノ時間	品	温	室	温
操込	六、〇〇	—	三五	—	二四
引揉	一三、〇〇	—	三〇	—	二四
床返	四、〇〇	—	三一	—	二四
切返	三、〇〇	—	三一、五	—	二四
盛替	三、〇〇	—	三二	—	二四
積替	三、〇〇	—	—	—	—

仲 仕 事
積 替
仕 舞 事
積 替
出 積 替
麴

三、〇〇
二、三〇
五、三〇
五、三〇

三五
三六
三七
三九
四二

二四
二四
二五
二五
二五

(イ) 及 (ロ) 製麴經過中ニ於ケル特徴

(イ) ニ於テ周布雄町ハ仲仕事ノ際品温高昇シ三八、五ニ及ベリ

(ロ) ニ於テ二條雄町、飯石八反流、仁多八反流ハ仲仕事頃品温高昇シ三八、三ニ及ベリ之ニ反シ飯石穀

良都、市山、布智雄町ハ遅ル傾向アリタリ

從ツテ積替ニ當リ狀貌各遅速アリ

(イ) 及 (ロ) 麴官能的品評

産 米 別	概	評 点	概	評 点
飯 石 穀 良 都	稍 硬 シ	甲 甲	破 精 淺 シ	乙 上
全 八 反 流	全	甲 甲	破 精 可 ナリ	乙 上
仁 多 穀 良 都	破 精 淺 シ	乙 下	破 精 淺 破 精 落 アリ	甲 下
全 八 反 流	破 精 相 當 深 シ	甲 甲	破 精 相 當 深 シ	甲 下

産 米 別	概	評 点	概	評 点
簸川布智 穀 良 都	最 モ 硬 シ	乙 下	破 精 落 多 シ	乙 下
全 塩 治 八 反 流	硬 シ	乙 下	濕 氣 多 ク 破 精 淺 シ	丙
邑 智 市 山 雄 町	硬 ク 甘 味 少 ナシ	甲 下	香 味 良	甲 甲
美 濃 二 條 雄 町	香 氣、破 精 共 ニ 良 キ モ 稍 硬 シ	甲 上	破 精 相 當 良	甲 甲
那 賀 周 布 雄 町	硬 シ	甲 下	全	甲 甲
八 束 出 雲 雄 町	香 氣、破 精 サ バ ケ 共 ニ 良	甲 上	全	甲 甲

(イ) 及 (ロ) 兩試驗成績總評

浸漬時間ノ長短ニヨリ同一米種ノ蒸米ノ成績ハ著シキ差違ヲ認ムル程度ニ至ラザリシモ (イ) (十八時間浸

漬)ニ於テ蒸セ上リ硬カリシモノハ (ロ) (二十一時間浸漬)ニ於テハ稍々軟粒化セル傾キアリ然シ製麴中ニ

硬化シ破精落、破精淺ニ至リタルモノアリ

(イ)ニ於テ蒸セ上リ軟良ト認メタルモノニツキテハ (ロ)ニ於テモ甚ダシキ差違ヲ認ムルニ至ラズ

右ノ米種ニ對シテハ水温、五度―六度位ナレバ十七時間―十八時間ノ浸漬ヲ適當ト認メタリ

又飯石、仁多、簸川布智各穀良都、飯石、簸川塩治各八反流、周布雄町ハ破精込淺ク、仁多八反流、市

山、二條、八束出雲郷各雄町ハ破精深キヲ認メタリ

(ハ) 及 (ニ) 各試驗事項並實施方法

(ハ)ハ低温 (ニ)ハ高温經過ヲ辿ラシム其豫定温度左ノ如シ

(其他ハ總テ同一條件ニヨル就中浸漬時間ハ前回ノ試驗ニ於テ適當ト認メタルニヨリ十七時間トス)

操	引	床	切	盛	積	仲	積	仕	積	出
作	込	揉	返		替	事	替	事	替	麩
(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)
低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過	低温豫定経過
三六、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三一、〇	三二、〇	三三、五	三五、〇	三六、五	三八、〇	三九、〇
(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)
高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過	高温豫定経過
三六、〇	三〇、五	三一、五	三一、〇	三二、〇	三三、〇	三五、〇	三七、〇	三八、五	四〇、〇	四二、〇

(八) 及 (二) 製麩經過中ニ於ケル特徴

(二) ニ於テ邑智市山雄町ハ仲仕事ノ際一時間二十分遅延セリ仁多八反流、簸川塩治八反流、周布雄町ハ積替ニ際シ進ミ八束出雲郷雄町邑智市山雄町ハ上昇緩ナリ、二條雄町ハ仕舞仕事ノ際既ニ膨軟ヲ示セリ

産	米	別	(八)	(二)
飯	石	穀良都	概	概
全	八	反流	香氣不良、破精淺ク破精落多シ	香氣劣リ硬シ
仁	多	穀良都	濕氣多シ	破精淺シ
全	八	反流	香氣稍劣濕氣多シ	香氣稍低シ破精良好ナリ
簸	川	布智	香氣、サバケ良甘味アリ	稍硬ク若シ
全	塩	治	香氣低シ	破精落アリ硬シ
邑	智	市山	サバケ良シ	サバケ不良香氣劣ル
美	濃	二條	香氣、サバケ良ク甘味多シ	破精最良シ
那	賀	周布	サバケ不良	破精込ミ良シ
郷	八	束出雲	香氣稍劣ル	破精淺シ
			破精良	膨軟
評	点		評	点
乙	下		評	点
乙	上		評	点
乙	下		評	点
甲	上		評	点
乙	上		評	点
甲	上		評	点
乙	下		評	点
甲	上		評	点
乙	下		評	点
甲	上		評	点
乙	上		評	点
乙	上		評	点
乙	上		評	点

(八) 及 (二) 兩試験成績總評

飯石米、那賀周布雄町ハ温度ノ高低ニヨリ差異ヲ見出スニ至ラズ、仁多穀良都、簸川布智穀良都、美濃

二條雄町ハ高温經過ノモノ優ル
仁多八反流、簸川塩治八反流、八束出雲郷雄町ハ低温經過ノモノ優ル

(ホ) 試験事項並實施方法

浸漬時間ハ二十時間ヲ標準トシ既往ノ實績ニヨリテ品温ノ高低ハ前記試験ニヨリテ之ヲ標準トシ他ハ狀貌ト香氣ニヨリ其ノ最善ナルトキヲ以テ操作セリ

浸漬時間ハ其ノ最モ硬質ナルモノ飯石穀良都ニノミ二十一時間ヲ浸漬シ他ハ二十時間トセリ

(ホ) ノ製麴經過豫定左ノ如シ

(但シ引込温度ノ高キハ引込量ノ少量ナルタメニ冷却硬化ノ虞アルヲ以テ之ヲ防ガンタメナリ)

原料	米	引込	床揉	切返	盛	積替	仲仕事	積替	仕舞	仕事	積替	出麴
飯石	穀良都	前八、三〇	后二、三〇	前六、三〇	前一〇時	後一、〇〇	後四、〇〇	後七、〇〇	前〇時	前三、三〇	前四、〇五	前四、一五
全	八反流	三六	三〇	三一、五	三一、五	三三	三四、五	三五、五	三七、五	四〇、五	四一、五	四一、五
仁多	穀良都	三六	三〇	三一、五	三一、五	三三	三四、五	三五、五	後六時	三七、五	四〇、五	四一、五
全	八反流	三五	三〇	三一、五	三一、五	三三	三四、五	三五、〇	後九、〇〇	三七、五	四一、〇	四一、五
簸川布智	穀良都	三六	三〇	三一、五	三一、五	三三	三四、五	三五、〇	三七、五	四〇、〇	四一、〇	四一、五

全	塩治	八反流	三〇	三〇	三一、五	三一、五	三三、〇	三四、五	三五、五	三七、五	四〇、五	前三、三〇
邑智市山	雄町	三五	三〇	三一、五	三一、五	三三、五	後一、三〇	三五、〇	三五、五	後九、三〇	四〇、〇	前四、〇〇
美濃二條	雄町	三五	三〇	三一、五	三一、五	三三、五	後一、〇〇	三五、〇	三五、五	三八、〇	四一、五	前三、三〇
那賀周布	雄町	三六	三〇	三一、五	三四、〇	三五、〇	三五、〇	三六、〇	三七、五	三七、五	四〇、五	前四、〇〇
八束出雲	雄町	三五	三〇	三一、五	三三、〇	三四、五	三四、五	三五、五	三七、五	三七、五	四〇、五	前四、〇〇

(ホ) ノ製麴經過中ニ於ケル特徴

仁多八反流ハ仲仕事後品温上昇シ他ヨリモ一時間早ク操作ヲ施行シタリ

布智穀良都ハ仲仕事後品温ノ上昇遅レ仕舞仕事 三六、五度ニ於テ行ヒ保温操作ニヨリテ所期ノ最高温度ヲトルヲ得タリ

二條雄町ハ温度ノトリ方容易ニシテ最高ニ昇リ易ク酒母麴トシテ適良ナリ

(4) 總評

(但シ試験ニ供シタル原料米ノ等級、精白等一致ヲ欠ギタルタメ多少ノ誤差アルヲ免レザルハ遺憾ナリ)

種別	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	平均点数	蒸餾成績概評	用途適否	香味	破精状態
浸漬時間	一八	二一	一七	一七	二〇					
溫度經過		低温經過	低温經過	高温經過						
飯石	甲	乙上	乙下	乙下	乙	乙	硬	湿氣稍	香アリ	淺シ
飯石	甲	甲下	乙上	乙下	甲	乙上	稍硬	良	突破精	式稍淺
石仁	甲	甲下	甲上	乙	甲下	甲	適良	中良	相當深	硬シ
多仁	乙下	乙上	乙下	甲	乙上	乙	硬	稍々可	硬ク	淺シ
多仁	甲下	甲	甲上	甲上	甲	甲上	軟良	最良	突破精	式良
市山	乙下	乙下	乙	甲	甲下	乙	硬	稍々不良	突破精	多シ
布智	乙下	丙	甲	乙下	乙	乙下	良否	湿氣	稍アリ	淺シ
塩治	甲上	甲	乙上	甲上	甲	甲上	軟良	最良	極破精	込ヨシ
二條	甲上	甲中	甲上	乙上	甲下	甲上	軟良	良	良	良
備前雄町	甲上	甲	乙上	乙上	甲下	甲上	稍硬	稍可	塗破精	式淺シ

七、酒母麴及酒母製造比較試験

昨年度本場ニ於テ試醸セル酒母ハ所謂吟醸仕込ニ使用スル目的ヲ以テ試験研究シタルモノニシテ畧其目的ヲ達成シ得タルヲ以テ本年度ニ於テハ原料米ヲ他縣ニ需メズ全ク本縣産米ノミヲ使用シ當業者ノ商品トシテ大部分ヲ占ムル中吟用酒母ノ試醸ニ意ヲ致シ縣産米使用酒母育成最適方法並現時ノ嗜好ニ適合スル濃醇清酒ヲ得ル酒母育成方法ヲ研究セリ

(1) 試験ノ目的

- (イ) 本縣産(備前雄町種粳移植)出雲郷雄町米ハ米粒大キク且ツ蒸米ノ蒸セ上リ軟質ナル特徴アルヲ以テ前暖氣ヲ或ル程度迄少クシ特ニ極端ナル湧後レニ陥ラザルヤウニナシ從テ糖濃度ヲ過多ニ陥ラシメズ酸味モギスキニ過ギサルヤウニナシ以テ冗クナキ酒母タラシメ醱ニ至リテ穩雅ナル醱酵ヲ繼續シ得ルガ如ク人為的ニ上品性酒母タリ得ルガ如クスルコト
- (ロ) 本縣産仁多米及周布米ヲ使用當地方在來式低温經過ヲ迪ラシメ強健醇雅ノ酒母ヲ得ルコト
- (ハ) 本縣産二條米ハ米粒大粒ニシテ軟質ナルヲ以テ可及的範圍内ニ於テ濃糖多酸而モ風味ノ膨ミアル温雅ナル酒母ヲ得ルコト

(2) 方針

- (イ) 菌ノ繁殖發育及品温經過ハ可成自然的ニ從フコト
- (ロ) 總テノ變調ハ豫防方法ニヨリ矯正スルコト

(3) 方法ノ大要

- (イ) ノ目的ニ副フ爲ニ熱湯ヲ使用シテ過糖ニ陥ラザル様ニナストモ成酸ハ可及的生ゼシムルガ如クシ膨レ湧付以後ニ於テ溶解ヲ圖リ同時ニ醱酵ヲス、メテ押味其他ノ强健性ヲ附與スルコト
- (ロ) ノ目的ニ副フ爲可及的低温經過ヲ迪ラシメ暖氣樽一本ヲ使用シ品温經過ヲ略豫定温度以上ニ上昇セザル様場合ニヨリテハ冷樽等ヲモ使用ス
- (ハ) ノ目的ニ副フ爲ニ初暖氣後四本目ヨリ暖氣樽二本ヲ使用シ且ツ權入モ相當強クシテ物料ノ溶解糖化ヲ圖ル

右麴、酒母製造經過ハ別記ノ如シ

麴ニ就キテ

酒母麴ニアリテハ强健ナル酒母ノ育成ヲ肝要トスルヲ以テ強力麴ヲ目標トスルモ上品ナル味ト芳香ヲ存有セル酒母ヲ希望スルガ爲ニ比較的若麴ヲ理想トセザル可カラズ而シテ其ノ製麴經過ハ可成低温經過ヲ迪ラシメ麴菌ノ繁殖深キ所謂破精込ヨキ膨軟麴ヲ以テ適良ナル溶解糖化作用ヲ營爲セシメザル可カラズ

1. 各産米使用酒母麴製造試験

イ、原料米及處理方法

種別	原料米産地	種類	品質	精白度	種麴使用量	浸漬時間	更水回数	水切時間	蒸餾時間
(イ)ノ目的ニヨル 第一號酒母麴	八束郡出雲郷村	備前雄町種粳移植	三等	二割五分	樋口石當リ三五匁	二二、五	一	三五分	一
(ロ)ノ目的ニヨル 第二號酒母麴	仁多郡	八反流	二等	二割五分	樋口、菱六混用石當リ三五匁	一八、五	一	三〇	一
(ロ)ノ目的ニヨル 第三號酒母麴	那賀郡周布村	雄町	並中等	二割五分	全上	二〇、〇	二	四〇	一
(ハ)ノ目的ニヨル 第四號酒母麴	美濃郡二條村	雄町	一等	二割五分	樋口六、今野四、石當リ三五匁	一八、五	一	二五	一

ロ、製麴經過表(略ス)

(麴) 批評

比較的低温經過ヲ迪ラシメタル若麴ヲ得ントテ出麴トシタルヲ以テ香氣佳良破精狀態ハ多ク突破精ヲ呈シ甘旨味共ニ適度ニ存シ前年度ニ於ケルヨリモ狀貌及味進ミタル感アリ

二條雄町ハ酒母麴トシテハ當地方ニ於テハ殆ンド理想ニ近キ麴ヲ得タリ出雲郷雄町、仁多米ハ之ニ次グ其内仁多米ハ破精込良好ナルモ味ノ乘リ方遅ル、ヲ以テ最高ヲ持續セシムルヲ可トセン周布雄町ハ稍硬粒ニシテ淺破精ニナリ易キ傾キアリ

酒母ニ就キテ

濃醇清酒ヲ嗜好トスルニ至レル今日從來ノ强健本位ノミノ酒母ヲ育成スルヨリハ寧ロ穩健ナル酒母ヲ以テシ之ニ配スルニ比較的糖化及蛋白質分解力ノ強性ナラザル若麴ヲ掛麴トシテ芳香醇美ノ清酒ヲ醸造スルヲ要スベシ

2. 各産米使用酒母育成試験

1. 原料米及處理方法

浸漬	精白	品質	種類	種別	
				原料米産地	種別
水	度	三	備前雄町種粳移植	(第一號酒母麴使用)	
				a 酒母米	八束郡出雲郷村
				b 酒母米	仁多郡反流郡
				c 酒母米	那賀郡周布村
全	全	二	雄	(第二號酒母麴使用)	
				d 酒母米	美濃郡二條村
				e 酒母米	雄町
				f 酒母米	雄町
全	全	一	雄	(第三號酒母麴使用)	
				g 酒母米	雄町
				h 酒母米	雄町
				i 酒母米	雄町
全	全	一	雄	(第四號酒母麴使用)	
				j 酒母米	雄町
				k 酒母米	雄町
				l 酒母米	雄町

浸漬時間	更水回数	水切時間	蒸餾時間	放冷	埋飯	原料配合	仕込水硬度	クロー	硝酸
二〇	一	二〇分	一時間	三〇分	蒸米 五斗 埋	蒸米 五斗 埋	八度	一七	多
二〇、五	一	三〇分	一時間	一	蒸米 五斗 埋	蒸米 五斗 埋	全	一七	全
二一	一	二五分	一時二十分	二〇分	蒸米 五斗 埋	蒸米 五斗 埋	全	一七	全
二〇	一	五時間	一時間	一時間	蒸米 五斗 埋	蒸米 五斗 埋	全	一三	全

ロ、酒母育成經過表(略ス)

(酒母批評)

各酒母ハ概ネ順調ナル經過ノ下ニ香味佳良ナル健全酒母ヲ得タリ

a. 出雲郷雄町米使用ノモノハ麴ニ於テ破精込モ深ク甘味モ充分ニ存シタル良麴ニシテ酒母米ノ蒸セ上リモ軟質ナリシガ故ニ荒糶操作モ容易ニシテ暖氣モ三本目ニ於テポーメー一四度ヲ示シタルヲ以テ品温モ

一五^{0c}弱迄早キ期間ニ於テ上昇セシメ其後三日ニシテ膨レノ兆ヲ認メシニヨリ熱湯ざりニヨリ成ルベク膨レ期間ヲ延長スルコトニ努メタリ、コハ所期ヨリモ餘リニ早湧的ニ來リ弱性配トナルヲ慮レタルト共ニ一面糖度ハ略豫定量ヲ得タリト雖酸量ハ多キヲ欲スレバナリ糖度ノ餘リ過大ナルハ前方針ノ如ク配自身ニ於テモ且又清酒ニテモ冗味ヲ附シ醱ノ酸酵ヲ強キニ過ギザラシムルナキヤヲ思惟セルヲ以テナリ此ノ如クシテ酸量モ相當生産セシモ尚早湧性ヲ帶ビタルヲ以テざり等ニヨリ物料ノ溶解ヲ圖リタリシモ尚品温モ急昇シ稍早湧配ニ陥リタルハ遺憾ナリ製品ハ淡白ニシテ香氣ヨクサラリトシタル配ナリシモ早湧上稍押味少キヲ遺憾トセリ

斯ノ如キ酒母ヲ得ンニハ仕込ヲ二ケ取トナシテ大量ニナシ暖氣使ヒハ熱湯小暖氣ニヨリ成酸ト糖化ノ調和ヲ圖ルヲ以テ効果アルモノト考ヘラル

b. 仁多米ニヨル本地方在來式低温經過ニヨル酒母ハ麴良好ナリシト小粒ナガラ溶解宜ロシカリシト相俟テ成績良好ナリキ

c. 周布米ニヨル本地方在來式低温經過ニヨル酒母ハ麴上淺破精ニシテ破精込惡シク米粒中粒ニシテ蒸セ上リ硬キニヨリポーメー一二、五度ニシテ膨レヲ見早湧配トナリ了レルハ遺憾トスル處ナリ原料米ノ栽培刈取ニ尚研究ヲ要スルガ如シ

d. 二條米ニヨルモノハ其ノ軟質ナルト麴ノ強力ナリシトニヨリ初メヨリ溶解宜シク且ツ暖氣二本使ノタメ益々溶解シ寧ロ過溶解ニ陥リタル傾アリテ遂ニ少シク稀釋シ差配ニヨリ之ヲ熟成セシメタルニ至リシモ香氣ト味トハ最モ良ク膨ラミヲ含マシメ得タルハ聊カ探ル處ナリトス

蓋シ二條雄町米ハ酒母麴及酒母米トシテハ最好適ニシテ他縣産銘品種ニ劣ラザルベシ過溶解ニ陥ラザル様注意スベシ

尚試醸中參考ニ資セル處次ノ如シ

(イ) 早湧救濟トシテ麴ヲ增量スルハ時期ノ如何ヲ問ハズ効果アルモノナレドモ其ノ早ケレバ早キ程効果著明ナリ

(ロ) 早湧救濟トシテ乳酸添加ハ時期早キニ失セバ香味ヲ害スルヲ以テ他ノ方法ニヨルニ努メ其ノ及バザルトキ分ケ時期ニ於テ投入スル方法ヲ探ルヲ可トスベシ

八、試驗場以外ニ於ケル研究調査事項

前記本場ニ於テ試醸セル各酒母ハ當業者ノ懇望ニヨリ實地醸造場ニ於テ當場指導ノ下ニ醸造試驗ヲ行ヒタリ

一、研究ノ場所 松江市 布野重右衛門

二、研究ノ目的 前記二條米酒母ニヨリ現時ノ嗜好ニ適合スル濃醇中吟清酒醸造試驗

三、研究ノ方針 强健酒母ニ配スルニモやし使用量ヲ減少スル比較的低温若麴ヲ以テシ仕込水ノ硬度ヲ五度「クロール」ヲ八〇トシ酸酵ヲ順調ニ導キ醇良ニシテ味ノサバケヨキヲ期セリ

四、實施成績

イ、原料米及處理方法

種別	原料米產地	種類	精白度	種麴使用量	浸漬用水	浸漬時間	更水	水切時間	蒸餾時間
掛米 (初、仲、留全樣)	備前	赤印	二、五	樋口石當リ二八匁	松江水道	六時	一回	二時	一時
掛米	全	全	全	全	全	全	全	全	全

ロ、掛麴製造經過(表略ス)

添麴ニ於テハ低温經過ヲ迪ラシメタル若麴ナルモ糖化力及旨白質分解力ニ乏シカラザル様仕舞仕事後出麴迄ノ時期ヲ延長セシメ仲、留ニ至ルニ從ヒ低温若麴ヲ以テ出麴トシタリ

ハ、醪配合方法

蒸米 七、〇〇〇 麴米 二、〇〇〇 汲水 九、九〇〇

ニ、醪

使用酒母ハ戻シ後ニ於ケル糖分ノ食ヒ切レ遅々タルヲ以テ其後ノ切レ方大ナル差違ナカラシム三週間ノ枯シ期間ヲ以テ使用ニ供シタリ

仕込温度ハ添一、五、仲八、五、留七、五トシタリ酒母ハ比較的強健ナルヲ以テ初添期間ニ於テ糖分ノ集積ヲ圖ル爲ニ稍々強ク權入モ多ク突キ仲及留ニ於テモ從來ヨリモ丁寧ニ權入ヲ施ス方針ヲ取り以後ハ輕キ突權程度ニ止メタリ最高温度ハ低温經過ヲ標榜トスルヲ以テ十五度ヲ豫定トシ後緩的醱酵ニヨリ酒質ノ温雅ナルヲ期シタリ

醱酵經過ハ稍々前急的ニ傾キタルヲ以テ枝打ハ可成遅延セシメ留後七日目枝打留後十日目口打ヲ施行セ

リ 搾揚期ノ切迫ト共ニ日々定刻ニ於テ瀘液ヲ分取シ其ノ分析成績ニヨリ比重及濃度ノ變移、酒精ノ増率、糖分消盡ノ状態ニ香味ヲ檢シ以テ揚時期ヲ豫想シ其適切ナル時期ヲ逸スルコトナキニ努メタリ

留後二十三日ニシテ槽掛ヲ行ヒ所期ノ清酒ヲ得タリ其ノ分析成績左ノ如シ

比	重	清酒メートル	酒	精	總	酸	エ	キ	ス
〇、九九七	五、〇	一七、二	〇、一六五二	四、八七					

ホ、歩合

留即時	使用前	醪	垂	清	酒	醪	水	量	粕
〇、七二四	〇、六七三	〇、八三四	一、四八〇	〇、六七三	一一、〇〇〇	一三、九二八			

黨

業

部

試驗事項

一、本縣產釉藥原料試驗

(1) 可驗品名ト產地

(イ) 來待 鑄石

八東郡來待村ニ産スル含鉄水成岩ニシテ古クヨリ石見燒、石見赤瓦釉藥トシテ使用サレ原料豊富價格低廉ニシテ年産額二十万俵(八貫俵)ナリ

來待鑄石ハ硅酸五八、八八礬土一九、七二酸化鉄五、〇五滿掩〇、二五石灰六、二〇苦土〇、二二加里曹達五、六八灼熱減量四、一一ノ化學成分ヲ有シゼーゲル錐七番(攝氏千二百二十度)ヨリ熔融ヲ始メ黑褐色ヲ呈スレドモゼーゲル錐十番(攝氏千二百度)ニ至レバ美麗ナル赤色ヲ呈ス尙十一番十二番ニアリテモ釉藥ノ流下スルコトナク益々光澤ヲ増ス

從來同石ヲ使用スルニハ水鏡ヲナシ小砂其他ノ不純物ヲ除キ之ニ土灰ヲ一割混ジテ使用ヲナシタレドモ試驗ノ結果同石ヲ「トロンミル」ニテ細粉シテ單味ニテ使用スルモ燒成上ノ成績ニハ何等異ナル所ヲ認めザリキ

(ロ) 來待 白石

八東郡來待村ニ産シ布志名燒釉藥原料トシテ使用ス

(八) 牧谷石
能義郡廣瀨町ニ産シ八幡焼釉藥原料トシテ使用ス

(ニ) 片句石
八東郡惠曇村ニ産シ樂山焼、松江焼釉藥原料トシテ使用ス

(ホ) 温泉津石

邇摩郡温泉津町ニ産シ石見焼釉藥トシテ使用セラル
以上(口)ヨリ(ホ)ニ至ル原料ハ其性質相類似シ共ニ風化長石ナリ

(2) 右熔融試験ト其成績

記號	調合比	成績(ゼーゲル錐 八―九番)	記號	調合比	成績(ゼーゲル錐 八―九番)
一	來待白石一〇〇	不熔融	一〇	牧谷石七〇土灰三〇	半熔融
二	全 石九〇土灰一〇	全	一一	全 石六〇土灰四〇	熔融適度
三	全 石八〇土灰二〇	全	一二	全 石五〇土灰五〇	熔融稍適度
四	全 石七〇土灰三〇	半熔融	一三	片句石一〇〇	不熔融
五	全 石六〇土灰四〇	熔融稍不足黄色ヲ呈ス	一四	全 石九〇土灰一〇	全
六	全 石五〇土灰五〇	熔融適度黄色ヲ呈ス	一五	全 石八〇土灰二〇	熔融不足
七	牧谷石一〇〇	不熔融	一六	全 石七〇土灰三〇	熔融稍不足
八	全 石九〇土灰一〇	全	一七	全 石六〇土灰四〇	熔融適度ニシテ失透
九	全 石八〇土灰二〇	全	一八	全 石五〇土灰五〇	熔融完全失透

(3) 總評

一九	温泉津石一〇〇	不熔融	二二	温泉津石七〇土灰三〇	熔融適度
二〇	全 石九〇土灰一〇	全	二三	全 石六〇土灰四〇	熔融稍過度
二一	全 石八〇土灰二〇	熔融稍不足	二四	全 石五〇土灰五〇	熔融過度

右ノ試験結果ヨリ見ルニ牧谷石、片句石ノ熔融狀態ハ似タルモノニシテ温泉津石稍々弱ク來待白石ハ熔融度最高シ

尙當試験場ニ於テ火鉢、植木鉢等ニ應用スル着色釉ノ基礎釉トシテノ光澤失透釉ヲ上記縣内産原料ヲ以テ試験セルニ次ニ示ス調合比ノモノハ實地應用シ得ルモノト認メタリ

温泉津石(又ハ牧谷石) 三〇

土灰 三〇

藁灰 四〇

右調合ハ重量比ニシテゼーゲル八番乃至九番ニ適スルモノナリ若シ低火度ノ釉藥ヲ欲スルトキハ藁灰ノ量ヲ減ジ土灰ノ量ヲ増スコトニヨリテ所要ノ釉藥ヲ得ラルベク尙反對ニ高火度ノモノヲ欲スルトキハ土灰ノ量ヲ減ジ藁灰ノ量ヲ増スベシ

二、建築用陶器ノ試験

近時歐風建築ノ増加スルニ從ヒ之ニ使用サル、敷瓦(クリンカータイル)壁瓦(タイル)等ノ需要モ又多キ

ヲ加フ從來此等ノ製品ハ主トシテ白色ノ素地ヲ使用セラル、モノミニシテ其原料少キ本縣ニ在リテハ從ツテ其製造モ行ハレザルノ状態ニアリタレドモ近時ノ嗜好ハ漸次坩器質素地ヲ以テ其表面ニ種々ノ模様ヲ表シ着色釉藥ヲ施セル製品ヲ使用サル、傾向ニ向ヒタルガ故ニ本縣ニ在リテハ該坩器質粘土ハ無盡藏ニシテ且近年製瓦業不振ノ状態ニアルヲ以テ其瓦業者ノ救済策トシテ之等着色セルタイル業ニ轉業、或ハ兼業セシメ以テ時代ノ要求ニ應ゼシムル如ク研究指導スルハ目下ノ急務タリト信ズ而シテ縣内各所ニ其製造工場散見スルニ至レリ

(1) 壁張用タイルノ試験

(イ) 素地 石見赤瓦ニ使用サルル原土ヲ使用セリ

(ロ) 成形 實地製造スルニ當リテハ半乾式ニテ機械ニテプレススルモノナレドモ本試験ニハ種々ノ模様ノモノヲ製造スル必要上濕式ニテ石膏型ヲ使用シ二寸五分角五分厚ノタイルヲ作レリ模様ニハ布目

石材模様、竹籠模様ノ三種ヲ作レリ

(ハ) 焼成 ゼーゲル三角錐八番酸化燐

(ニ) 釉藥 種々ノ釉藥ヲ調合シ白地掛又ハ素焼セルモノニ施釉シテ焼成セルニ次ニ示ス釉藥ハ各々其色ヲ異ニスレドモ實地應用シテ適當ナルモノト認メタリ

a. 失透光澤釉(温泉津石三〇 土灰三〇 藁灰四〇)一立ニ對シニ酸化マンガン四十瓦乃至百瓦
茶褐色ヲ呈シニ酸化マンガンノ量ニ從ツテ濃淡ヲ生ズ

b. 失透光澤釉一立ニ對シ酸化鉄四十瓦乃至百瓦

赤褐色ヲ呈シ色ノ濃淡ハ其量ニ比例スルコト前釉藥ト同ジ

c. 失透光澤釉一立ニ對シ酸化コバルト二瓦、酸化鉄六〇瓦

青味アル褐色ヲ呈ス

d. 失透光澤釉一立ニ對シニ酸化マンガン三〇瓦、酸化クローム一〇瓦

褐色ヲ呈ス

e. 失透光澤釉一立ニ對シ炭酸銅二五瓦

青磁色ヲ呈ス

以上ノ諸釉藥ハ白地掛トナスモ焼成後何等欠点ナシ

f. 白釉一立ニ對シニ酸化マンガン四〇瓦乃至百瓦

白釉調合比

長	石	四三〇	石	灰	石	二三八
滑	石	八七	珪	石		二四五
磷酸カルシウム		二〇				

茶褐色ノ艶消狀トナル

g. 白釉(調合比前同様)一立ニ對シ酸化鉄四〇瓦乃至百瓦

黄褐色ノ艶消狀ヲナス

f. g. 釉藥ハ白地掛トナストキハ焼成後ニ釉藥縮レル欠点アルヲ以テ素焼セルモノニ施釉スルモノトス

以上諸釉藥ヲ施セルモノハ實地製造ニ適スルモノト認メタレドモ使用素地ノ收縮ハ一割二分位ニシテタイ
ル用素地トシテハ收縮多キノ感アルヲ以テ現在使用セル瓦用粘土ニ一割乃至二割ノシヤモット(燒粉)又
ハ珪酸の原料(政)ヲ混ジテ使用スルヲ適當ト認ム

(2) クリンカータイル(敷瓦)

本試験ハ邇摩郡温泉津町梅田工場ヲシテ當試驗場ニ在ル手廻用タイル製形機ヲ貸與シ實地製造試驗ヲ行ハ
シメタルモノナリ

原土ハ瓦用原土ニ政ヲ二割混ジ瓦製造法ト同ジク荒地ヲ取り製形機ニテ濕式ニプレス成形シ乾燥ノ後無釉
ノ儘ゼーゲル三角錐八番ニテ燒成セリ

燒成ノ結果吸水量僅少ニシテ良結果ヲ得タリ

然レドモ無釉ニテハ表面ノ汚色スル欠点アルヲ以テ食塩釉ヲ施シ尙寸法ヲ統一スル必要上倒燐式石炭窯ヲ
使用スル必要アリ

三、結晶釉ノ試験

結晶釉ハ一般ニ釉藥ノ一部ヲ「フリット」トシテ使用セラル、ヲ普通トナセドモ其操作煩雜ナルヲ以テ生ノ
原料ヲ使用シテ結晶釉ヲ得ントシ之ガ試験ヲ行ヒタルニ次ノ如キ結果ヲ得タリ

素地ハ石見燒白色坯土ヲ使用シ燒成火度ハゼーゲル三角錐九番酸化燐ニテ燒成セリ

a. 失透光澤釉(温泉津石三〇 土灰三〇 藁灰四〇) 一立ニ對シニ酸化マンガン八十瓦

茶褐色ノ釉面上ニ小豆大ノ圓形ノ無數ノ結晶ヲ表セリ

b. 白 釉

長 石 四三〇 石灰石 二三八

滑 石 八七 珪 石 二四五

磷酸カルシウム 二〇

以上ヲ調合セル白釉一立ニ對シニ酸化マンガン八十瓦ルチール四十瓦

茶褐色釉面上ニ五耗大ノ圓形ノ結晶ヲ生ズ

c. 白釉一立ニ對シ酸化鉄百瓦ルチール四十瓦

赤褐色釉面上ニ五、六耗大ノ圓形ノ結晶ヲ生ズ

四、色釉藥ノ試験

本試験ハ年々繼續シテ行ヘル試験ニシテ本年度中ニ試験セルモノノ内ニテ實地應用セララルモノヲ擧グレバ
次ノ如シ

a. 失透艶消釉 ゼーゲル錐八番乃至九番

長 石 一一一、八 石灰石 六二一、〇

紙業部

	滑石	二二、七		珪石	三三、六	
g.	金茶釉					
a	艶消釉一立ニ對シ紅柄八十瓦					
c.	黄色釉(茶味ヲ帶ブ)					
	來待鎳石	三〇	土灰	三〇	藁灰	四〇
f.	青海鼠釉					
	溫泉津石	六〇	土灰	四〇	藁灰	一二
	酸化コバルト	〇、四	酸化銅	〇、二		
g.	青色釉					
	溫泉津石	六〇	土灰	四〇	酸化クロム	三

紙業部

滑石	二二、七	珪石	三三、六	四〇
金茶釉				
艶消釉、立ニ對シ紅柄八十五				
黄色釉 (茶味ヲ帶ブ)				
來待鉛石	三〇	土灰	三〇	藁灰
青海鼠釉				四〇
溫泉津石	六〇	土灰	四〇	藁灰
酸化コバルト	〇、四	酸化銅	〇、二	二二
青色釉				
溫泉津石	六	土灰	四	酸化クロム
				三

試験事項

一、出雲半紙類ニサイズズヲ施ス試験

藁半紙所謂出雲半紙ノ主原料ハ從來三極及藁ヲ以テセルガ近時三極ノ價格極メテ高價ナルガ故ニ一般當業者ハ三極ノ使用量ヲ減ジ之ニ代フルニ安價ナル紙料ヲ以テセントスルノ傾向ヲ生ゼリ此ノ時ニ當リ一昨年度來當場ニ於テ試験研究セル外國產木皮纖維（俗名南洋楮）ハ豫想以上ニ當業者ノ賞用スル處トナリ現今ニ於テハ出雲半紙必須ノ重要原料トナルニ至レリ而モ生産費ニ於テハ從來三極ヲ使用セル時代ニ比シ遙ニ有利ナルガ故ニ將來ニ於テモ益々使用ノ量ヲ増加セントスルノ傾向アリ然ルニ本原料ノ一大欠点トシテ擧グベキハ紙質柔軟トナリテペンノ使用ニ當リインキノ滲潤スル点ニアリ出雲半紙類唯一ノ顧客タル北陸地方ノ紙況ヲ調査セシ處若シ此ノ欠点ヲ改善セザレバ遂ニ其販路ヲ他ニ奪ハルルノ日アラントノコトナリキ依リテ此ノ欠点ヲ改良センガ爲紙料ニサイズヲ施シ所謂インキ止メノ法ヲ研究セリ

第一回試験トシテ從來各縣一般ニ施行サレツ、アルサイズ法ヲ以テ試験ヲ舉行シ其製品ヲ需要地ノ有力ナル紙商ニ示セシ處前記ノ欠点ハ改善セラレタルモ紙風洋紙化シテ和紙トシテノ趣ナク賣行上面白カラザル由ナリキ即チ第一回試験ハ出雲半紙ニサイズヲ施ス方法トシテハ遂ニ失敗ニ歸セシモ本試験失敗ノ原因ヲ追及セシ處極メテ参考トナルベキ点アルヲ發見セルヲ以テ更ニ第二回試験ヲ舉行スルノ前提トシテ先ヅ何故ニ第一回試験ガ失敗ニ歸セシヤノ原因ヲ探究セントス

從來各地ニ於テ行ハレツ、アルサイズノ方法ハ所謂樹脂サイズナルモ其サイズ液ノ製法ハ一般洋紙工場ノ採用セル所ノ白色サイズニシテ遊離ロジンノ含有量極メテ多ク其量二五—三〇%内外ノモノヲ使用セリ而テ各地ノ和紙業者モ亦之ヲ模倣セルニ過ギザリシナリ斯クノ如ク遊離ロジンノ含量大ナルサイズ液ヲ使用スルハ手漉和紙ニ於テハ抄造後ノ處理由困難ヲ感ズルノミナラズ紙風洋紙化スルノ傾向アリ即遊離ロジンヲ多量ニ含有スルサイズ液ノ使用ハ該紙ヲ洋紙化スル傾向ヲ益大ナラシムルヲ以テ遊離ロジンノ含量一五%以下ノモノタルヲ要スルコトヲ知レリ依テ第二回試験ニ着手セリ

第二回試験 元來出雲半紙類ハ毛筆及ペン兩様ノ使用ニ適スルヲ其特長トセルガ故ニ第二回ノ試験ハ此ノ特長ヲ發揮セシメツ、成ル可ク洋紙化セザル範圍内ニ於テサイズヲ施スコトニ工夫セリ即チ第一回試験ニ於テサイズ液ハ遊離ロジンノ含有量一五%ヲ越ヘザルコトヲ知りタルガ故ニ先ヅ斯ノ如キサイズ液ヲ作レリ其サイズ液ノ製法ハ普通ノ樹脂石鹼ノ製法ト大差ナク單ニ使用スベキ鹼化劑ノ量ヲ異ニスルモノナレドモ本縣ノ當業者一般ニ普通樹脂石鹼ノ製法ヲ熟知セルモノ少キガ故ニ左ニ出雲半紙ニ應用シ得ベキ樹脂石鹼液製法ノ大要ヲ記シ併セテ普通樹脂石鹼液ノ製法ヲモ會得セシメントス

出雲半紙ニ應用スベキ樹脂石鹼ヲ製造スルニハ
 松 脂 (一名洋チャン) 一〇〇〇匁
 曹達灰 一七〇匁
 水 三升
 亞麻仁油 五匁

ヲ要ス而テ其サイズ液製造ノ操作ハ先ヅ松脂一貫目ヲ及釜(二重釜ヲ使用スレバ操作極メテ簡單ナレドモ設備ナキガ故ニ本試験ニ於テハ普通ノ及釜ヲ使用セリ)ニ投入シ之ニ豫メ準備セル曹達灰溶液(曹達灰一七〇匁ヲ水三升ニ溶解セルモノ)約二升余ヲ釜中ニ注ギ加熱ス加熱中ハ盛ニ發泡スルガ故ニ極メテ徐々ニ加熱シ内容物ノ溢出セザル様注意ス斯クテ少時ノ後殘餘ノ曹達灰液(約一升)ヲ少量ヅ、注加シツ、攪拌シ加熱ヲ續行スルコト五乃至八時間ノ後鹼化ノ完否ヲ驗ス鹼化ノ完否ヲ知ランニハ煮沸中ノ松脂液ヲ小サキ棒先ニ附着セシメ温湯中ニ溶解セシムルニ乳白色ノ溶液トナリテ毫モ沈澱殘留物ヲ認メザルヲ以テ度トス斯ノ如キニ至レバ使用セル松脂ガ全部鹼化セラレタルヲ意味スルガ故ニ最早加熱ノ必要ナシ此ノ際最後ニ亞麻仁油五匁(約一匁)ヲ注加シテ充分攪拌シ以テ操作ヲ完了シ他ノ容器ニ貯フ。

サイズ液ノ使用法

斯クシテ得タルサイズ液ヲ使用スルニハサイズ液ノ二三十倍ノ熱湯ヲ以テ稀釋シ置キ抄造セントスル紙料一貫目(乾燥量)ニ對シ松脂十匁ノ割合ニ調合シ紙料ニ充分攪拌混合セシメタル後更ニ明礬二十匁ノ水溶液ヲ注加シテ更ニヨク攪拌シタル後充分水洗シテ抄造ニ供ス

斯クシテ得タル紙ハ南洋楮ノ欠点ヲ矯正シ得テ紙質洋紙化セズ且ツ出雲半紙ノ特長ヲ失ハザル好紙質ヲ得ルナリ

一般ニサイズ施行ニ際シ紙料ニ對シ約三%内外ノ松脂ヲ使用スルヲ普通トスレドモ本法ニ於テハ其量ヲ減ジ一%トナシタルノ理ハ出雲半紙ノ特長ヲ考慮シ紙質ノ洋紙化セントスルノ傾向ヲ恐レテナリ

第三回試験 第二回ノ試験ニ於テハ抄造セントスル配合紙料全部ニサイズヲ施シタレドモ該法中ノ結果ヲ熟

考スルニ配合紙料中ノ大部分ヲ占ムル藁及三椗等ニハ纖維本來ノ性質上何ラサイズヲ施スノ必要ヲ認メズ依
リテ經濟的見地ヨリシテ第三回試験トシテ單ニ南洋楮及バルブノミニサイズヲ施シ之ヲ藁、三椗等ノ紙料ニ
配合抄造セリ

而シテ南洋楮及バルブ等ノ紙料ハ紙質柔軟トナリ且インキ滲潤ノ原因ヲナスガ故ニ之等ノ欠点ヲ矯正スル必
要上強サイズヲ施スノ必要ヲ認メタルヲ以テサイズ施行ニ當リテハ紙料ニ對シ松脂三%ニ相當スルサイズ液
ヲ使用シ第二回試験法ノ如キ操作ニヨリ抄造セリ

以上三回ニ涉レル試験ノ結果ヲ考フルニ第一法ハインキ滲潤ノ欠点ヲ矯正シ得レドモ紙風洋紙化シテ商品ト
シテ賣行不良ナルガ故ニ本法ハ出雲半紙ニ應用シ得ズ第二法ハ第一法ノ欠点ヲ補ヒ得テ良法ト稱スベキモ第
三法ニ比シ稍々不經濟ナルノ感ナキ能ハズ依テ結局第三法ヲ當業者ニ推奨セントスルモノナリ

二、紙ノ自然變化ニ就テノ研究

紙ハ機械漉紙、手漉紙又ハ和紙、洋紙ニ論ナク製造後時日ノ經過ニ連レ自然的ニ紙質變化スルモノニシテ洋
紙工場等ニ於テハ製造當時不合格ナリシ製品ガ久シキヲ經テ合格セシ例稀ナリトセズ和紙ニ於テハ其變化ノ
度洋紙ノ如ク甚シカラズト雖相當當業者ノ注意ヲ喚起スベキ点アリ本縣ノ當業者一般ニ之等ノ事項ニ關シ極
メテ無關心ナルノ嫌アルヲ以テ參考ニ資スベク本試験ヲ舉行セリ

(1) 紙質ノ馴レ

紙ノ馴レハ時日ノ經過ニ連レ次第ニ良好ナルヲ認ム然レドモ之ヲ數字のニ表スベキ設備ナキヲ遺憾トス時
日ノ經過ニ連レ斯ク變化ヲ來スノ理由ハ不明ナルモ製造ノ際過度ニ乾燥セラレタル紙体が空中水分及溫度
等ノ變化ノタメ徐々ニ溫度ヲ吸收シ又ハ纖維ノ配列時ヲ經テ其平衡ヲ得ルニ起因スルモノナラン

(2) 紙ノ緊縮度

乾燥直後ト數日經過後トヲ比較スレバ乾燥直後ノ方遙ニ緊縮度大ナリ而シテ數日ヲ經過シテヨリハ殆んど
不變ナル緊縮度ヲ保ツ緊縮度ノ鑑定モ觸感ニ依ルノ外ナキヲ以テ數字のニ表シ得ズ

(3) 紙ノ強度

紙ハ製造直後ヨリ或ル一定ノ期間迄ハ時日ノ經過ニ連レ強度次第ニ増加ス其増加ノ度ハサイズノ強弱、叩
解ノ粘粗、填料ノ有無等ニヨリ一定セズト雖次ノ四種類ノ紙ニ就キ試験セシ所左ノ結果ヲ得タリ

紙名	製造翌日ノ強度(斤)	製造後八ヶ月日ノ強度(斤)	八ヶ月日ニ於ケル強度ノ増加率(%)
純雁皮紙	6743	7067	4.8
純三椗紙	6100	6656	9.1
三椗90%配合バルブ	5514	4254	5.1
三椗70%配合バルブ	4047	5856	6.2

(4) 紙ノ目方

紙ハ乾燥直後ヨリ時日ノ經過ニ連レ或ル一定ノ時期迄ハ次第ニ目方ヲ増加ス而モ其増加率ハ初メノ數日間

ハ特ニ急激ナリ、日光乾燥紙ニアリテ乾燥不充分ナルモノハ日時ノ經過ニ從ヒ目方却テ減少スル場合スラアリ蒸氣乾燥ヲ行ヘル數種類ニ就キ試驗セシニ左ノ結果ヲ得タリ但シ目方ノ増減ハ大氣中ニ於ケル湿度ニ左右セララルコト大ナレドモ本場ニハ之ニ對スル設備ナキガ故ニ略同一程度ト認メタル日ヲ選ミテ檢定セリ其結果次ノ如シ

紙ノ種類	乾燥直後ノ目方	翌日ノ目方	四日後ノ目方	一ヶ月後ノ目方	六ヶ月後ノ目方	六ヶ月後ノ増加率%
雁皮紙	1000	1025	1039	1040	1051	5.1
三亞紙	1000	1036	1050	1055	1081	8.0
三亞紙90%配合	1000	1019	1028	1031	1039	3.9
三亞紙70%配合	1000	1038	1051	1058	1071	7.1
未晒三亞紙	1000	1012	1023	1023	1026	2.6
糊入三亞紙	1000	1075	1075	1075	1121	2.1
三亞紙70%配合	1000	1032	1032	1050	1060	6.0

以上各試驗ノ結果ヨリ考フルニ製品ノ販賣時期ハ時價ノ如何貯藏中ノ金利等ヲ考慮シテ決行スベキモ之等ヲ度外視シテ單ニ紙質上ヨリ論ズレバ製造後直ニ販賣スルガ如キハ不利ナルノミナラズ重量取引ノ際ハ目方ニ於テモ多大ノ損失アルヲ察知シ得ルガ故ニ營業者ノ注意ヲ喚起スル所以ナリ

三、支那産纖維植物ノ紙料トシテノ評價試驗

支那産ノ或ル纖維植物ガ紙料トシテノ價值如何ヲ試驗セシニ本縣出雲地方ニ於ケル藁紙ノ製造家ニ取り利用價アルヲ發見セリ

本品ハ大阪市ノ貿易商熊谷商店ノ寄贈ニ係ルモノニシテ支那漢口地方ニ野生スル植物ナルモ名稱不明ナリ、長サ五、六尺ニ達スル狀茅ノ植物ニシテ纖維ノ狀態ハ全ク藁ニ類似セリ依リテ藁ノ代用原料タラシムルノ目的ヲ以テ左ノ如キ試驗ヲ舉行セリ

(1) 撰別工程

原料中ニハ紙屑、木片等ノ夾雜物多少混在スルガ故ニ煮熟前之ヲ除去スルヲ要ス本工程ハ極メテ簡單ニ行ヒ得且夾雜物ノ數モ少キガ故ニ本工程ヲ省略スルコトヲ得

(2) 煮熟工程

原料ハ水洗、浸漬等ヲ行ハズ解束後直ニ煮釜ニ投ジ苛性曹達一五%ヲ用ヒテ煮熟ヲ行フ煮熟ニ於ケル要領ハ大体藁ニ準ス即チ煮熟時間二時間ノ後數時間ノ釜留ヲ行フガ如キハ極メテ肝要ナル事項タリ煮熟後ノあく抜キハ極メテ簡單ニ行ヒ得ルコト藁ノ比ニアラズ

(3) 叩解工程

叩解容易ナル原料ニシテ本試驗ニ於テハ小型ビーターヲ使用シ三十五分間叩解セリ藁紙料ニ於テハ叩解前白搗ヲ行ヘドモ本品ハ白搗ノ必要ヲ認メズ纖維ノ性質ハ禾本科植物ラシク極メテ短細ナルガ故ニ叩解ト云

ハンヨリハ寧ろ離解ヲ行フニ近シ

(4) 漂白工程

叩解後ノ紙料ヲ漂白セシニ稍漂白難ヲ感ジタリ晒粉一八%ヲ以テ漂白シタルニ純白トハ稱シ難カリキニ○
%ヲ使用セシ處初メテ純白色ヲ得タリ

(5) 紙質

三極紙料ニ本品二割ヲ配合セル紙質ト藁二割ヲ配合セル紙質トヲ比較スルニ前者ハ紙質緊締シテ一見三極
紙ニ類似シ後者ヨリ優ルトモ劣ラズ

(6) 歩止

漂白後ノ紙料ヲ乾燥秤量セシニ二八、三%ノ歩止リヲ得タリ即チ歩止リニ於テモ藁ニ匹敵ス

(7) 採算

本品十貫目ノ價格ハ貳圓六十錢ナルガ故ニ紙料トシテノ價格ハ藁ニ對比シ得ベク且ツ仕事操作ノ難易ニ於
テモ藁ト大差ナキガ故ニ藁ノ代用トシテハ充分使用ノ價值アリ而モ藁ノ如ク節部ヲ除去スルノ要ナク紙質
良好ナル等ノ点ハ藁ニ比シ遙ニ優レリ

(8) 總評

以上ノ諸点ヨリ考フルトキハ少クトモ藁ヨリ優レリトモ劣ラズト評價セザル可カラズ出雲半紙製造家ニ取
リ充分使用價アルヲ認メタルモ之ガ使用ノ奨励ニ先立チ支那動亂ニテ輸入杜絶シタルハ遺憾トス

染織部

ハンヨウハ等の離解を行フニ近シ

4 漂白工程

曝曬後ノ紙材ノ漂白セシニ稱白雜ラ感ジマシ粉ニハシテ以テ漂白シタルニ純白トハ稱シ難クキニ
テ使用セシ處初メテ純白色ヲ得タリ

5 紙質

ノ種紙材ニ本品ニ別ニ配合セル紙質トモ別ニ配合セル紙質トヲ比較スルニ前者ハ紙質緊締シテ一見ニ極
紙ニ類似シ後者ヨリ優劣トモ劣ラズ

6 歩止

漂白後ノ紙材ヲ乾燥淨量セシニ一八、三ノ歩止ヲ得タリ即チ歩止リニ於テモ葦ニ匹敵ス

7 採算

本品上頁目ノ價格ハ試則六十錢ナリ故ニ原料トシテノ價格ハ葦ニ對比シ得ベク且ツ仕事操作ノ難易ニ於
テモ葦ト大差ナキカ葦ニ葦ノ代用トシテハ充分使用ノ價值アリ而モ葦ノ如ク節部ヲ除去スルノ要ナク紙質
良劣ナク等ノ点ハ葦ニ比シ遙ニ優レタリ

8 總評

以上ノ諸点ヨリ考メルトキハ少クトモ葦ヨリ優レリトモ劣ラズト評價セザル可カラズ出雲半紙製造家ニ取
テ充分使用可アラシムルニタカモ之ト使用ノ難點ニ先立チテ亂ルニテ輸入材絶シタルハ遺憾トス

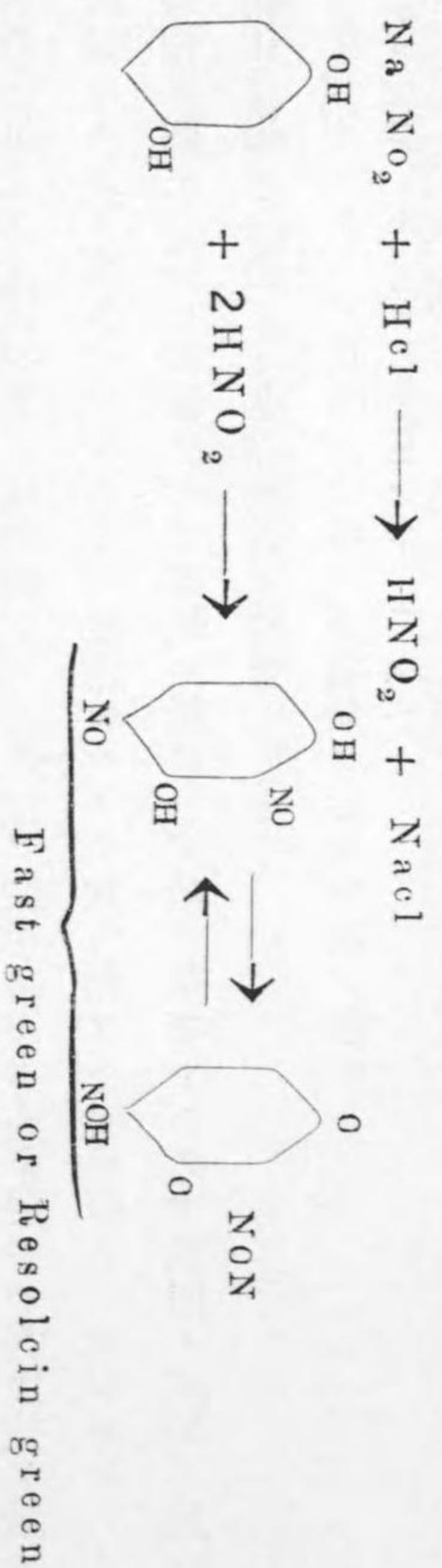
染 織 部

試験事項

一、レゾルチンノ亞硝化ニ依ル綠色捺染法

(一) 總論

レゾルチンヲ亞硝化スル色素ハニトロソ色素ト稱シ綠色媒染々料トス其化學變化ハ次ノ如シ



元來本染料ハ媒染々料ナルヲ以テ鉄、アルミナ及クロム塩類等ノ媒染ニヨリテ發色スルモノニシテ豫メ之等ノ金屬塩ノ溶液ニテ媒染工程ヲ行ヒ次ニ本染料ヲ化合セシメ以テ發色シ染色ニ供セリ而シテ本染色法ハ甚ダ染色堅牢ナルモ手數煩雜ニシテ而モ注意セザレバ斑染トナルヲ免レザル欠点アリ

縣内當業者ノ殆ンド全部ノモノハ裏地、風呂敷類等ノ染色ニハ藍ヲ下染トシ直接或ハ塩基性染料ノ上掛ヲナシテ綠色染メヲ行ヒ居ルモ其堅牢度ハ一般ニ弱クシテ僅ノ使用ニヨリテ剝落スル不完全ナル染色法ヲ行

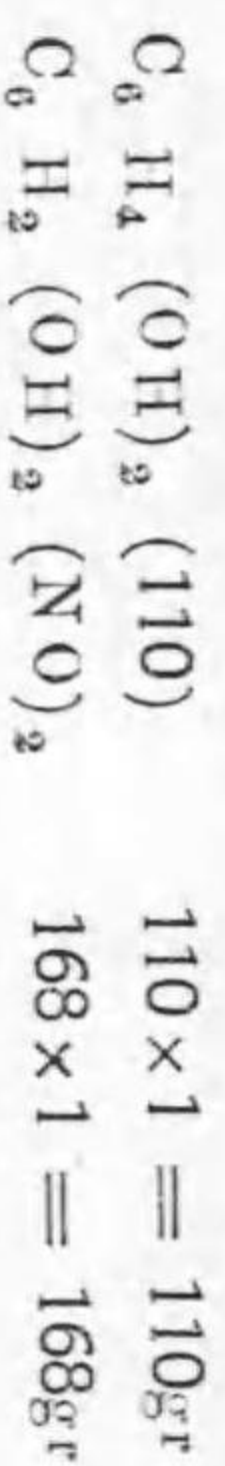
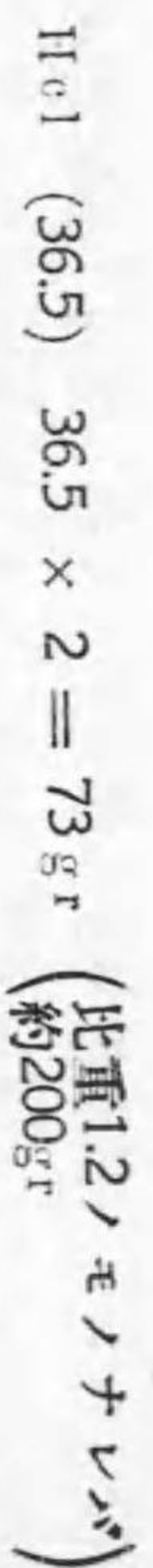
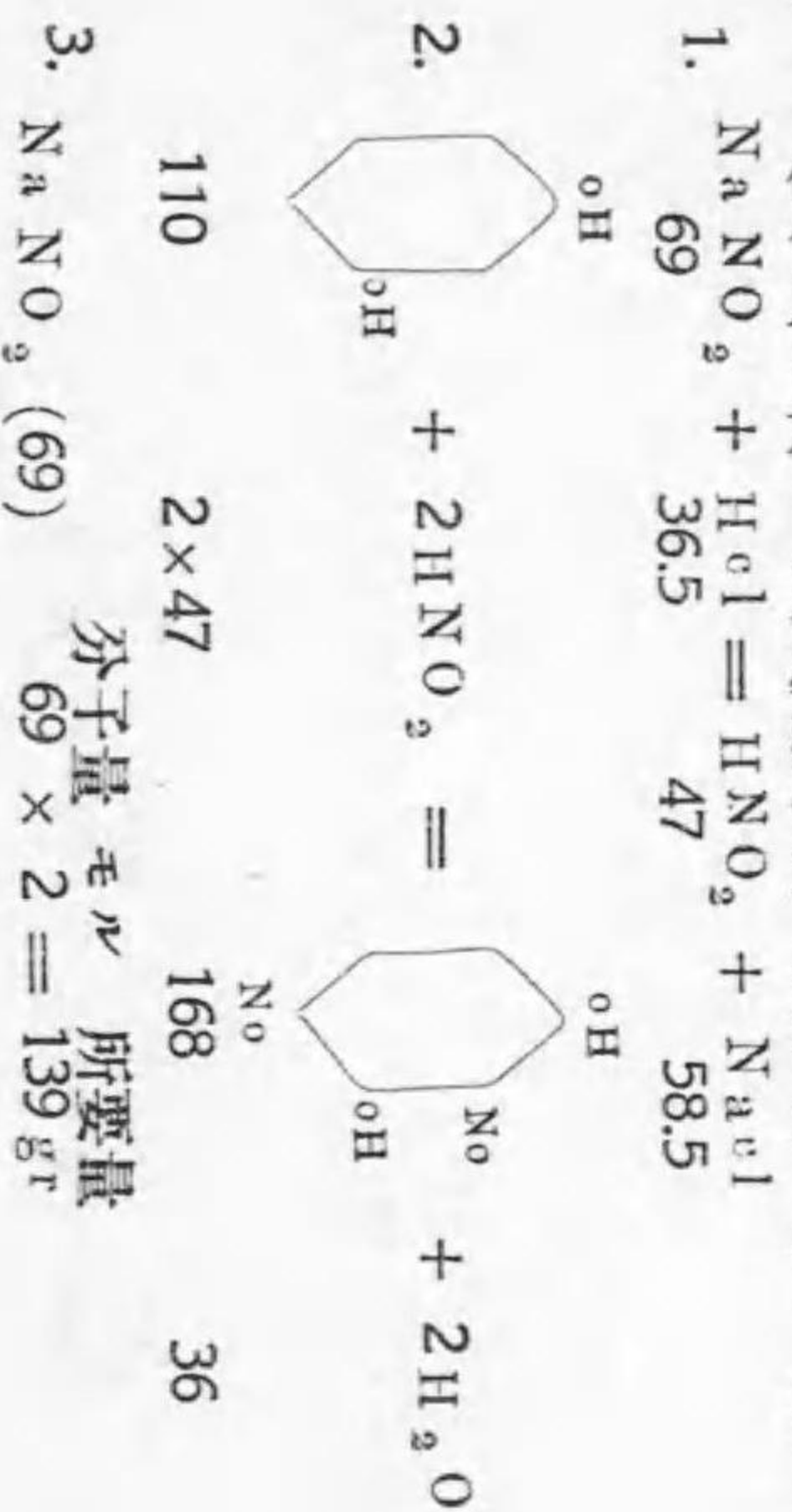
ヘリ

然ルニレゾルチンノ亞硝化ニヨル綠色染ハ染色頗ル堅牢ニシテ且ツ他ノ媒染々料ノ如ク煩雜ナル媒染工程ヲ要セズ一回ニシテ媒染ト發色トヲ同時ニ行ヒ得テ頗ル便利ナルヲ以テ該方法ニ就キ試驗研究セリ尤モ該方法ニ就キテハ一、二ノ文献アルモ何レモ機械捺染ニ依ル方法ナルヲ以テ本縣當業者ニ指導スルニハ手捺染法ニ依ラザルベカラズ故ニ本試驗モ總テ手捺染ニ依ルコト、セリ

一般ニ綠色染トスルニハ其ノ媒染劑トシテ鉄塩ヲ使用スルモ本染色ニハ赤血塩ヲ最モ便ナリトス且ツ發色後ノ酸通シニヨリ多少ベレンス青ヲ發色セシメテ其色相ヲ一層良好ナラシムルモノナリ(本法ハ主トシテ染織時報第四七一號ニ記載サル)當場ニ於テハ文献ヲ基準トシテ十數回ノ試験ヲ施行セリ

(二) 亞硝化作用ニ必要ナル藥劑及各ノ當量

ニトロ化作用ニ於ケル化學變化並ニ瓦當量ヲ示セバ次ノ如シ



即チ

レゾルチン 百十瓦

塩 酸 (比重一、二) 二百瓦

亞硝酸曹達 百二十八瓦

ヲ使用シテ

ヂユトロレゾルチン 百六十八瓦

ヲ得ルコトナル

(三) 試 験

第一回ヨリ第十三回迄行フ其ノ方法ハ煩雜ニ失スルヲ以テ省略ス

(四) 結 論

以上十三回ノ試験ニヨリテ稍所要ノ染色法ヲ得ラレタルヲ以テ次ノ如ク結論セントス

(1) 藥劑ノ調合法及分量ニ關シ

- a. レゾルチン、塩酸及亞硝酸曹達ノ量ハ化學式計算ニヨリテ得ラレタルモノト略ボ同量ニテ可ナリ
- b. 亞硝化ノ作用中ハ攪拌ヲ烈シクシテ化學變化ヲ成ルベク早く完了セシムルコトヲ要ス

- c. 温度ハ七、八度以下ナルコトヲ要ス從ツテ冬期以外ハ氷塊ヲ使用シテ冷却シ低溫トナスヲ要ス温度高キトキハ亞硝酸瓦斯ノ發生ヲ盛ナラシメ亞硝化作用ヲ不完全トス
- d. 赤血塩ハレゾルチンノ十倍以上ヲ使用スルコト然ラザレバ色澤惡シ
- e. アムモニアモ成ルベク多量ニ加フルヲ可トス
- f. 添加ニハ赤血塩ヲ最後ニスルヲ要ス

(口) 染色操作ニ關シ

- a. 可染布ハ成ルベク液ノ浸入ノ良好ナルモノヲ適當トスル多量ノ糊ヲ附着セルモノニ其儘引染ヲ行フ時ハ水洗ノ場合ニ糊ト共ニ染色ノ剝落スルコト多シ
- b. 引染後ノ乾燥ハ成ルベク速ニ行フコト殊ニ防染糊ノ施シタル場合ハ特ニ注意ヲ要ス
- c. 蒸發作用ハ十分間以上之ヲ行ヒ發色ヲ充分ナラシムルコト、發色不充分ナルトキハ染色濃度淡シ
- d. 蒸發スルニ際シテハ注意シテ極メテ平等ニ行フコト蒸發斑ナルトキハ發色一樣ナラズシテ斑染ヲ起ス蒸發中或ハ蒸發前可染布ニ水滴ヲ落シ又ハ乾燥不充分ナルコトハ嚴禁ニシテ其部分ハ何レモ發色セズ
- e. 蒸發後酸通シヲ行ヘバ色相青味ヲ帶ビ綠色鮮明トナルモ酸通シヲ行ハザレバ綠色ハオリーブ色ヲ帶ブ
- f. 可染布ハ其種類ニヨリテ染液ノ吸收ヲ異ニスルヲ以テ色澤ヲ異ニス即チ天竺類ノ如キハ密度ノ關係上甚其色ニ青味ヲ帶ブモ晒木綿ノ如ク密度粗ナルモノハ青味ヲ帶ブコト少クオリーブ色ニ近シ

(ハ) 防染糊及印花ニ關シ

- g. 酸洗スルト否トニ拘ラズ水洗ハ充分ニナスコト然ラザレバ蒸發其他ニヨリ纖維ノ酸化サルルコト多キヲ以テ品質脆弱トナル
- h. 堅牢度ハ最モ強シ
- a. 防染糊ハ粘着力ノ強キモノヲ撰定スルヲ要ス即チ普通ノ糯粉ニ粘着ヲ増ス爲メセラツクヲ添加スセラツクヲ添加セザルモ稍同一ノ結果ヲ得タルモセラツクヲ添加シテ糯粉ノ量ヲ減ズル方良好ナリ
- b. 亞硫酸加里、枸橼酸曹達ノ適當量ヲ加フルヲ可トス
- c. 印花スルニ際シテハ成ルベク糊層ヲ厚クシ而モ糊ヲ纖維ニ充分密着セシムルヲ要ス而シテ裏面モ裏搔キヲ行ヒテ糊ヲ裏面ニマデ浸出セシムルコト肝要ナリ然ラザレバ赤血塩ガ印花防染部ニ浸入シ爲ニ甚シク模様ヲ不鮮明ナラシムルモノナリ
- d. 糊落シハ相當ニ困難ナルヲ以テ充分ニ水ニ浸漬シテ後行フヲ可トス
- e. 可染布ニテ組織ノ密ナルモノハ裏面ヘノ糊ノ浸出ナキヲ以テ印花モ兩面ニ行フ方結果良好ナリ

(ニ) 各種ノ試験ノ結果最モ良好ナリシモノハ次ノ如シ

a. 防染法

次ノ如キ防染糊ヲ作ル

糯粉	三十瓦
生麩	二十五

ラツク 五瓦
水 百瓦

煮沸スルコト二十分間ニシテ硬キ糊トナシ之ニ

亞硫酸加里 十瓦

枸橼酸曹達 五瓦

水 十瓦

ノ溶解セルモノヲ混合シ以テ防染糊トナス

b. 引染法

レゾルチン 二、二瓦

(1) 塩酸 (比重一、二) 四、〇瓦

水 七〇瓦

(2) 亞硝酸曹達 二、八瓦

水 五〇瓦

(1)及(2)ヲ冷却シツ、徐々ニ混合シテ化學變化ヲ起サシメ暫時放置シテ作用ヲ完了セシメ次ニ

アムモニア水 一五瓦

ヲ加ヘ更ニ

赤血塩 三〇瓦

水 一五〇瓦

ヲ添加シテ以テ引染液トナシ之ヲ可染布ニ引染ス

c. 發色法

豫メ防染糊ヲ施セル綿布ニ前記引染液ヲ平等ニ引キ成ルベク速ニ乾燥シ然ル後之ヲ蒸發器ニ入レ約十五分間蒸發シテ發色セシメ更ニ水一立中ニ濃塩酸十瓦ヲ混ジタル液ニ通入シテ取出シ充分ナル水洗後乾燥セシメタリ

二、縮緬緯ノ撚數及伸度ノ鑑定試驗

(一) 試驗ノ目的

縮緬製織ニ際シ其ノ使用スル緯糸ノ撚數及伸度ノ適否ハ縮緬仕上後ニ於ケル織物ノ價値ニ影響スルコト頗ル大ナルハ言ヲ俟タズ當業者ノ何レモ之ニ關スル研究ハ不絶忘ラザルモノアリ然レドモ現今本縣當業者ノ殆ンド全部ノモノハ縮緬緯ノ撚數並伸度ニ就テハ確定的ナル根據ヲ有スルモノニアラズシテ經驗ト習慣トニヨリテ漠トセル撚數及伸度ヲ以テ満足セリ

例ヘバ「何枚ノ齒車ヲ用ヒ縮ミ何寸」ノ縮緬緯ト稱スル如シ

依テ當場ニ於テハ今般現在當業者ノ使用シツ、アル縮緬緯ヲ集メ之ガ撚數及伸度ヲ見出シ(數字的ニ)以テ各種ニ就キ比較研究シ當業者ニ指導セリ

(二) 試験方法

可檢糸ノ織度

撚 數(一米間ニ於ケル)

伸 度

鎮輪ノ重サ

糸ノ種類及品質

(三) 試験件數

三十五種

(四) 試験成績

各種ノ糸ニ就キテノ數字の成績ハ之ヲ省略スルモ一般ニ殆ンド總テノモノガ撚數及伸度少クシテ稍適當ト思ハルルモノハ僅ニ五、六種ニ過ギズ甚シキハ生糸百五十「デニール」内外ノ太サニテ撚數僅カ千八百回以下ノモノアリキスル緯糸ヲ使用スルモ到底縮緬ト稱スベキ織物ハ望マレズ其他撚數ノ不同ナルモノノ伸度ガ撚數ニ比シ著シク大ナルモノ等アリタルヲ以テ夫々ニ就キ當業者ニ注意ヲ與ヘテ之ヲ改良セシメタリ

三、玉糸應用靴下編試験(未完)

(一) 目的

本試験ハ玉糸利用方法ノ一トシテ之ヲ靴下トシテ利用スレバ其製品ハ靴下トシテ如何ナル實用的價值アリヤ且ツ經濟的ニ如何ナル關係アリヤヲ試ミントスルニアリ而シテ本試験ハ玉糸ノミヲ使用スル試験ナレドモ尙繼續シテ玉糸ヲ一部又ハ大部ノ他纖維ト混合スレバ如何ナル結果ヲ生ズルモノナルヤモ引繼キ試験セントス

(二) 試験

左ノ通數回ノ試験ヲ施行セリ

第一回試験

(イ) 供試原料 江津女子實業學校製玉糸(八、九粒)

(ロ) 石鹼及炭酸曹達ヲ使用シテ精練ヲナス練減リ一割八分

(ハ) 染色ハ酸性染料ヲ使用セリ

(ニ) 製 編 百二十本ノ手廻靴下機械ヲ使用シ全玉糸八本合トシテ製編セリ

(ホ) 結 果 製品ニ毛羽立チ腰弱ク光澤乏シク且ツ編ミ目粗ナル爲メ粗雜ナルモノトナレリ尙八本合ノ

如キハ系繰ニ手數ヲ多ク要シ製編中モ糸立ニ特ニ注意ヲ要スル等ノ多々欠点アリ

第二回試験

(イ) 原 料 精練及染色ハ第一回ト全様ニセリ

(ロ) 製 編 百六十本半自動機ヲ使用シ五本合セトシ尙底厚ニハ絹紡2100番一本ヲ使用セリ

(ハ) 結 果 第一回ニ比シ稍体裁ヨキ優美ナルモノヲ得タルモ腰弱ク手觸リ余リ柔軟ニシテ毛羽立チ多

キヲ以テ更ニ使用糸ニ就キ研究ヲ要ス

第三回試験

原料 第一回ノ分ト同ジ

(イ) 精練 玉糸ノ目方ニ對シ石鹼一〇%炭酸曹達三%ヲ使用シテ精練セリ練減リ一割一分

(ハ) 染色ハ酸性染料黒ヲ使用シ黑色染トセリ

(ニ) 底厚用糸ハ絹紡2¹⁰⁰ヲ全様ニ染色セリ

(ホ) 製編 前回ト同様ニセリ

結 果 製品稍粗硬トナリタルモ未ダメリヤス製品トシテハ柔軟ニ過ギ腰弱シ且ツ本法並ニ前二回

ニ於テモ同様ニ糸繰困難ニシテ能率上ラズ更ニ糸繰容易ナル如ク精練染色方法ヲ試験スルヲ要セリ

第四回試験

(イ) 原料 第一回ノ分ト全ジ

(ロ) 精練 玉糸ノ目方ニ對シ一、五%ノ石鹼及〇、五%ノ炭酸曹達ヲ用ヒテ僅カナル精練ヲナセリ練減

リ二歩

(ハ) 染色ハ直接染料黒ヲ使用シ底厚用糸ハ前回ノ分ヲ使用セリ

(ニ) 製編 前同様ニセリ

(ホ) 結 果 使用糸余リニ硬ク從ツテ製編モ困難ニシテ且ツ製品手觸リ粗剛、伸度乏シク靴下トシテ不
適當ナルモノヲ得タリ然レドモ糸繰ハ前三回ニ比シ甚容易ナリキ

全原料ヲ用ヒテ最適當ナルモノヲ得ンニハ精練ニ於テ五分乃至一割ノ練減リアルモノニ行フヲ可トス尙
ホ糸ノ太サハ成ルベク太キモノヲ用ヒテ糸合數ヲ少クスルヲ操作上得策トス

第五回試験

(イ) 原料 十五、六粒取り太玉糸

(ロ) 精練 玉糸ノ目方ニ對シ一二%ノ石鹼及三%ノ炭酸曹達ヲ使用シテ精練セリ練減リ約一割

(ハ) 染色ハ直接染料ノ黒ヲ用ヒ底厚用糸ハ前全様ノモノヲ使用セリ

(ニ) 製 品 百六十本半自動機ヲ用ヒ二本合トシテ製編セリ

(ホ) 結 果 手觸リ、光澤、伸度共ニ適當ナルモノヲ得タルモ糸合セ少キヲ以テ糸斑ヲヨク表ハシ体裁
ニ於テ稍遺憾ナルモノヲ得タリ故ニ糸繰リ及製編ニ於テ多少ノ手數ヲ多ク要スト雖モ四乃至五本合トシ
テ使用スルヲ適當トセン更ニ撚糸トシテ試験セントス

14.2₁
629

昭和四年九月一日印刷
昭和四年九月十五日發行

島根縣工業試驗場

松江市南田町中ノ丁

印刷人 友定長治

松江市寺町貳百五番地參

印刷所 會社 昭和印刷所

電話七四八番

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

終